



## 東日本大震災から11年を迎えて・・・

### 被災地の復興と現状

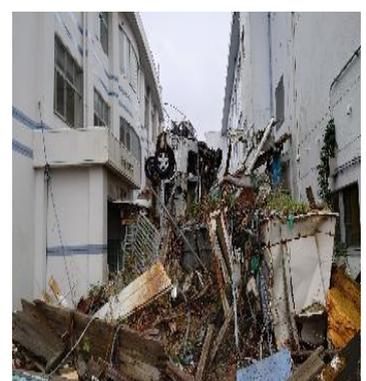
- ・2021年12月、仙台市と八戸市を結ぶ三陸沿岸道路が全線開通し、復興道路のインフラ整備はほぼ完了している。
- ・2022年2月現在、今も3万8139人が避難生活をしている。
- ・福島第1原発事故により周辺の6町村の一部が現在も避難指示区域に指定されている。
- ・2021年4月、政府は福島第1原発で増え続ける「処理水」について、2023年春頃に海洋放出する計画を承認したが、地元漁業者や全国の漁業協同組合連合会は反対している。

2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災により被災された方々には、心よりお見舞い申し上げますとともに、復興に尽力されている皆様には安全に留意され、ご活躍されることをお祈りいたします。

千葉地本は震災後、「被災地に支援物資を届ける取り組み」「被災地でのボランティア活動」「南相馬市の小・中学校へ花をプレゼントする行動」など、「抵抗とヒューマニズム」の精神で、復興支援に取り組んできました。

そして震災から10年を迎える昨年10月に、被害が最も酷く震災の爪痕の残る三陸沿岸を中心に現地踏査に行ってきました。海や川には、津波対策のための大きな堤防が出来ていたり、瓦礫の撤去も終わり、復興が進んでいるかのように見えてきましたが、南三陸町の防災対策庁舎や気仙沼市の向洋高校の震災遺構を見て、その傷は計り知れないものだと実感しました。また復興が進んでいると言われてますが、思った以上に家が少なく、元住んでいた住民の皆さんが戻ってきていない現実や、工事が様々な場所で行われているのを見ると、まだまだ、復興は終わっていないと感じました。

10年という節目を過ぎ、復興について取り上げる報道なども少ない気がしていますが、現実はまだ道半ばです。東日本大震災の記憶と教訓や、これまでの歴史を忘れないために、現地に立って現実を学び、次世代に語りついでいく取り組みをしていきます。



東日本大震災での教訓と防災・減災意識を学び、安全で安心して働ける職場をJR東労組に結集して創り出そう！